

## 命を救う AED



AEDとは、心室細動と呼ばれる心臓がこまかく震えることにより、血液を体内に送り出せなくなっている状態になった心臓に対して、電気ショックを与え（除細動）、正常なリズムに戻すための医療機器です。Automated External Defibrillatorの略で、日本語では「自動体外式除細動器」といいます。

### AEDの使用方法



「大丈夫ですか？」と声をかけ、反応をみる。



AEDが届くまで、人工呼吸と胸骨圧迫を行う。



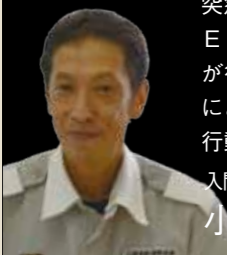
貼る位置はパッドにわかりやすく記載されています。



必ず、自分や周りの人は傷病者から離れてください。

Interview

### 勇気ある行動が命を救う



突然の心停止状態の場合、AEDや心肺蘇生法を身近な人が行うことで、救命率が格段にあがります。勇気を持って行動をしてください。

入間東部地区消防組合西消防署 3係  
小山昭彦 救急隊長



①三芳町消防団役員の皆さん《前列/鈴木紀啓団長(中央)/清水邦宏副団長(左)/鈴木秀幸副団長(右)》《後列左から各分団長①富岡健太郎/②中嶋剣太郎/③小山幸宏/④江原義則/⑤山田豊治》(敬称略・数字は分団) ②三芳町消防団は3月に消防庁長官から表彰旗を授与され、表彰されました。(県内で三芳町消防団員のみ)。2月には地域活動表彰も受けています。



## 三芳町消防団の多岐にわたる活動

消防団員と消防職員との違いをご存じですか？消防職員は消防本部に勤務する、地方公務員であり、消防団員は、別の仕事をもちながら、地域の火災や災害時に現場に駆けつける地域のボランティア的な存在です。

三芳町の消防団は、5つの分団と、女性団員、本部役員で構成され、83人(平成27年4月現在)が地域の安全を守るため、主に次のような活動をしています。

【火災・災害発生時の消火・救

町を愛する気持ちが、町を守り続ける

# 地域を守る消防団員

別の仕事に従事しながらも町の安全を守るため活動をしている三芳町消防団。日ごろの活動や町への想いについて紹介します。



操法大会で優勝した第4分団の操法

三芳をこれからも守り続けたい

仕事と掛け持ちながらも、なぜ高い意識で取り組んでいるのでしょうか。三芳町消防団長の鈴木紀啓さんの話です。「地域の先輩たちが長年、消防団として町を守り続けてきた歴史が三芳にはあります。その重みを私たちは感じていきます」と話し「地域のことは自分達が一番よく知っています。愛着のある地域で悲しいことはおきてほしくないし、消防団員としての活動に後悔をしたくない。そのため

「愛着のある三芳町 全力で守り続けたい」

三芳町消防団長  
鈴木紀啓さん(41)

第1分団に14年、本部に5年在籍。今年の4月から三芳町消防団長に就任した。

### 技術の高さは志の高さの現れ

7月5日に実施された消防団の消防技術を競う入間東部支部消防団・消防ポンプ操法大会では三芳町消防団が1位から3位、敢闘賞の上位を占めるといふ快挙を達成。3月には、日頃の功績が認められ、消防庁長官から表彰旗を授与。近隣消防団も視察に訪れるなど、高い技術と志を三芳町消防団は持っています。

自分たちでできることは、全力で取り組みたいと思っています」と続けました。

### 三芳町民、そして団長としての想い

一人の三芳町民として、消防団長としての思いとは。最後にメッセージをいただきました。「三芳で暮らす人の生命と財産を守りたい。これは団員共通の想いです。そのために限られた時間の中で団員は訓練を積んでいます。本来は何もないのが一番です。日ごろから防災・火災予防等について家族で話をし

### 普通救命講習 I

応急手当に関する正しい知識と技術を身につけるための「心肺蘇生法」と「AEDの使い方」を学ぶことができます。

- ▶日時 9月26日(出)9:00～12:00 ▶会場 消防本部大講堂
- ▶対象 三芳町・富士見市・ふじみ野市在住、在勤、在学者
- ▶申込み 9月7日(月)～11日(金)の間に下記へ連絡し予約
- ▶入間東部地区消防組合消防本部救急課
- ☎261-6673 (平日8:30～17:00)



防ぎょ訓練は消防署と消防団が相互に連携を図ることを目的に実施されています。

消防団員と消防職員 合同消防訓練を実施

入間東部地区消防組合の三芳分署の署員と行う消防訓練。2市1町合同防ぎょ訓練のほか、地域のため三芳町消防団は高いレベルをめざし、3年前から単独でも消防署員と合同で訓練を実施しています。